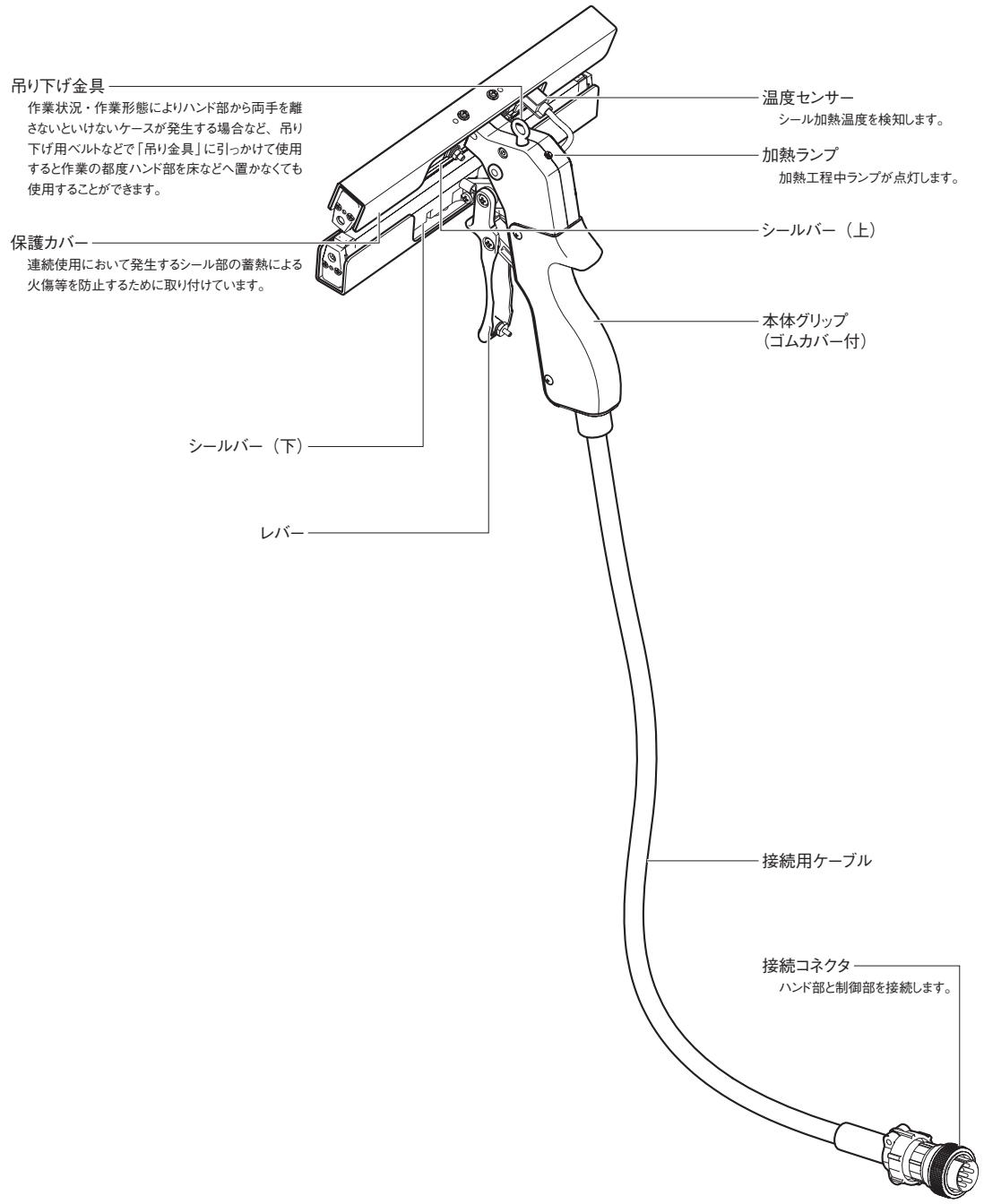
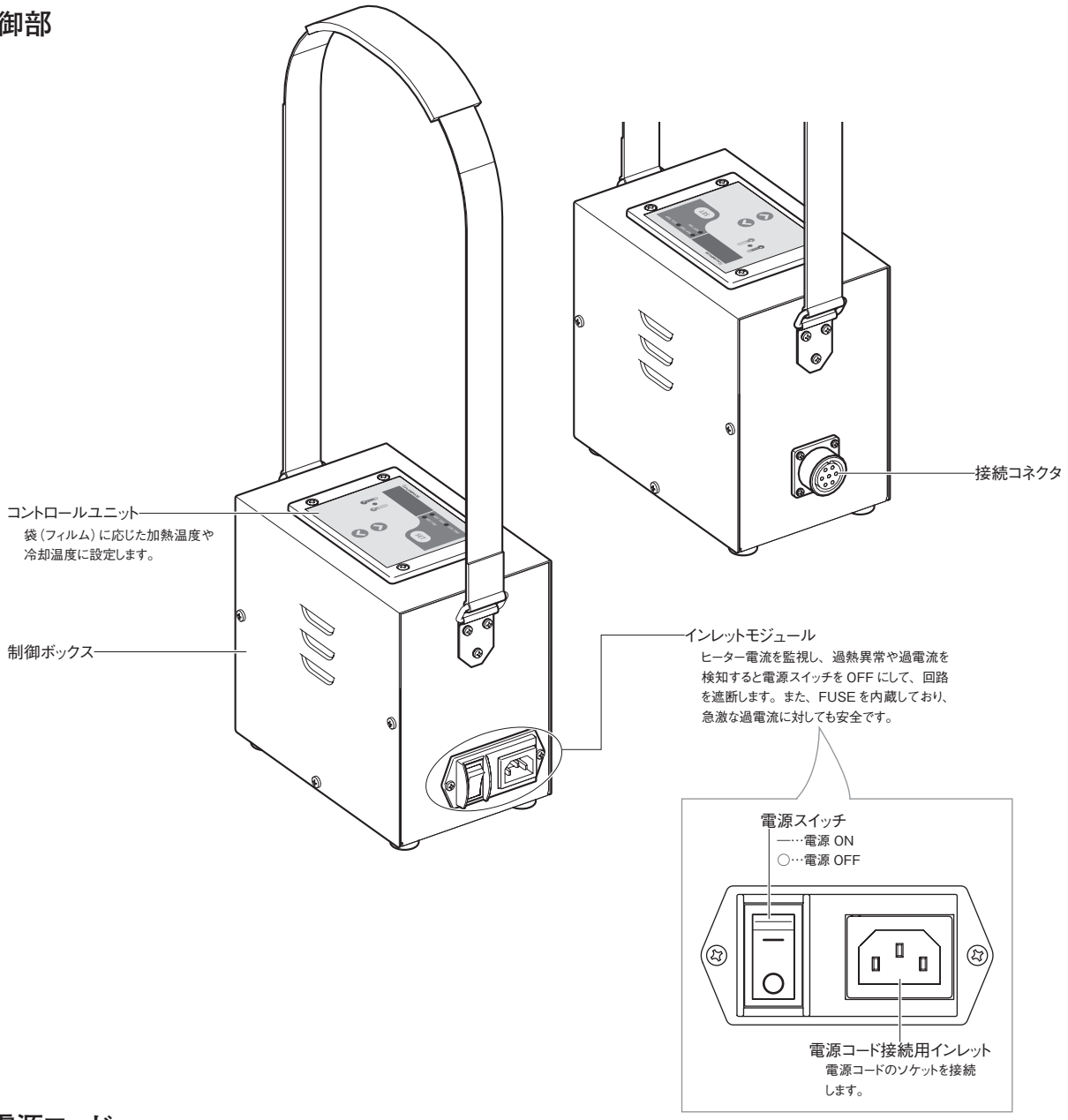
5　各部の名称とはたらき

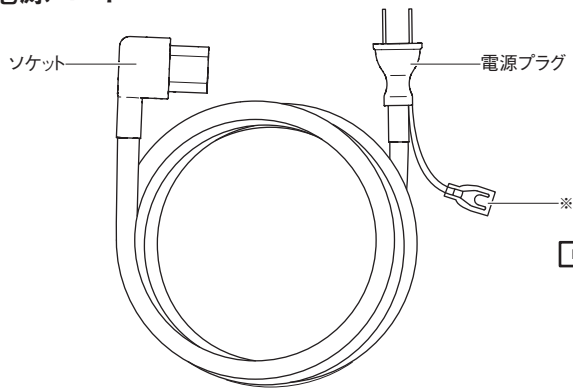
ハンド部



制御部



電源コード



※電源コードの電源プラグには、アース線がありますが、
製品本体とは接続されていません。

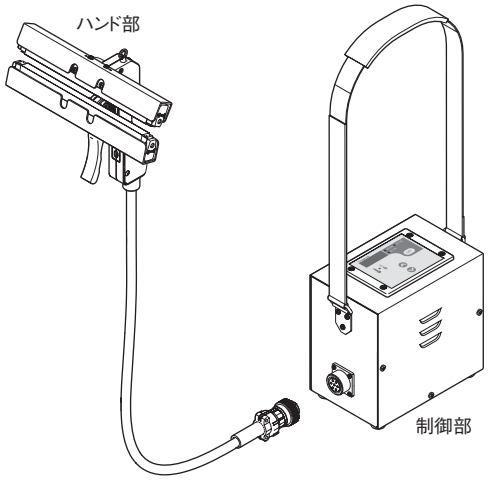
MEMO 本製品は、法律に基づき、内部配線の絶縁に十分配慮した製品となっているため、アース接続は不要です。ただし、湿気の多い場所や水がかかる恐れのある場所では、故障により漏電し、感電の恐れがあるため、絶対に使用しないでください。

6　正しい使い方

この製品を使用する時は以下の「正しい使い方」をよくお読みいただき、お使いください。
以下の方法以外の操作方法で使用されますと故障の原因となり、たいへん危険です。

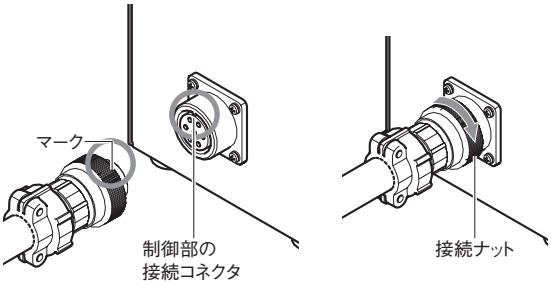
6-1　ハンド部の取り付け

工場出荷時に制御部からハンド部を取り外して梱包しています。



1　ハンド部の接続コネクタを制御部の接続コネクタに差し込みます。制御部の接続コネクタにある溝とハンド部の接続コネクタのマーク部を一致させて差し込んでください。

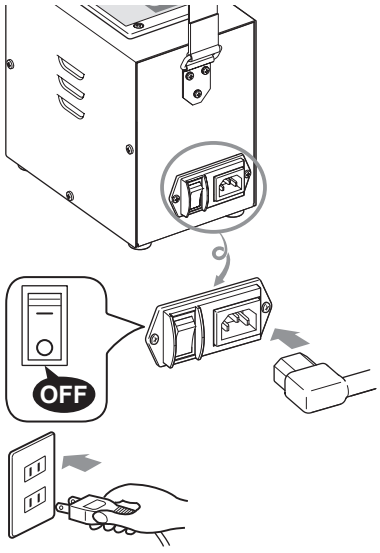
2　差し込んだら、ハンド部のコネクタについてある接続ナットを回して、接続を確実にしてください。



6-2　電源コードの接続

1　電源コードのソケットを右イラストを参照して、制御部の電源コード接続用インレットに接続してください。

2　電源コードの電源プラグを「1　仕様」(→ P.5) で掲載しているお買い上げ製品の電圧・電力がとれるコンセントに確実に根元まで差し込んでください。

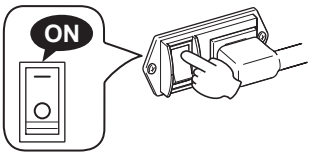


⚠ 警告　電源コードは必ず附属のものを使用してください。規定の容量に合わない場合、火災などの危険があります。

注！　電源スイッチは OFF の状態で、電源コードのソケット、電源プラグを接続してください。
電源スイッチが ON の状態で電源コードを接続すると、電源スイッチ内部の安全回路がまだ動作していないため、一旦 OFF になりますが、異常ではありません。

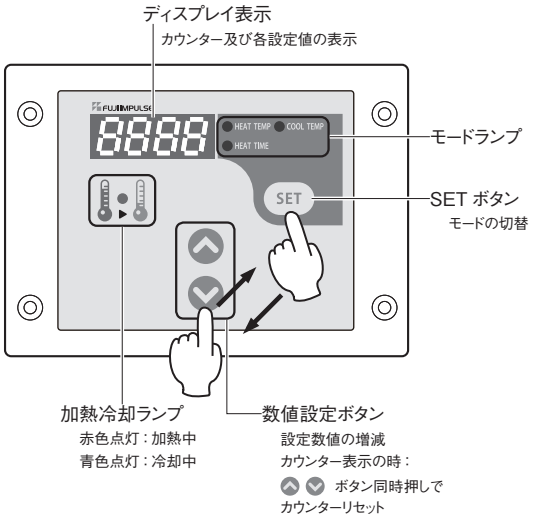
6-3　電源スイッチ ON

制御部の電源スイッチを押して ON 状態にするとコントロールユニットのディスプレイ表示が点灯します。



6-4　コントロールユニットの設定

コントロールユニットで加熱温度・加熱時間（加熱温度保持時間）・冷却温度を設定します。
袋（フィルム）の材質、厚さなどにより適切な設定値は変わりますので、異なる袋（フィルム）を使用される時はその都度設定してください。
SET ボタンを押すと、カウンター数（シール数）→加熱温度設定値→加熱時間設定値（加熱温度保持時間）→冷却温度設定値の順にディスプレイ表示に呼び出せます。
呼び出されたモードはモードランプが点灯します。どのモードランプも点灯していない時はカウンター数（シール数）が表示されている時です。



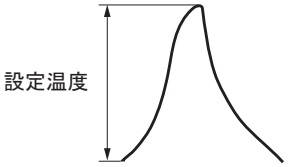
6-4-1　加熱温度の設定

・SET ボタンを押し、モードランプの HEAT TEMP が点灯していることを確認します。
・シールする袋（フィルム）に合わせて加熱温度を設定します。
　▲▼ ボタンで数値を加減して設定します。
　［加熱温度の設定範囲：60 ～ 180℃］
・使用される袋（フィルム）の材質により適切な加熱温度は異なります。
・シールができる最低の加熱温度に設定してください。
　作業速度が上がり、部品の無駄な消耗を抑えます。

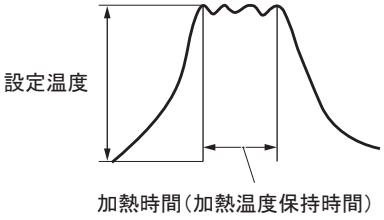
6-4-2　加熱時間（加熱温度保持時間）の設定

・SETボタンを押し、モードランプの HEAT TIME が点灯していることを確認します。
・加熱時間（加熱温度保持時間）を設定します。
　▲▼ ボタンで数値を加減して設定します。
　［加熱時間の設定範囲：0.0 ～ 2.0 秒］
・温度制御における加熱時間（加熱温度保持時間）とは設定された温度を維持させる時間のことで、通常は、加熱時間（加熱温度保持時間）を設定しなくても（加熱時間（加熱温度保持時間）を 0.0 秒にしても）シールはできます。
　袋（フィルム）に厚みがあり、加熱温度を上げてもシールができない場合やシールができても袋（フィルム）がダメージを受けている場合のみ加熱時間（加熱温度保持時間）を設定する効果が期待できます。

加熱時間（加熱温度保持時間）を設定しない場合の加熱温度測定グラフの軌跡



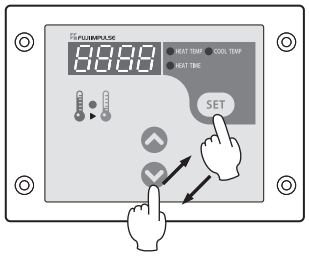
加熱時間（加熱温度保持時間）を設定した場合の加熱温度測定グラフの軌跡

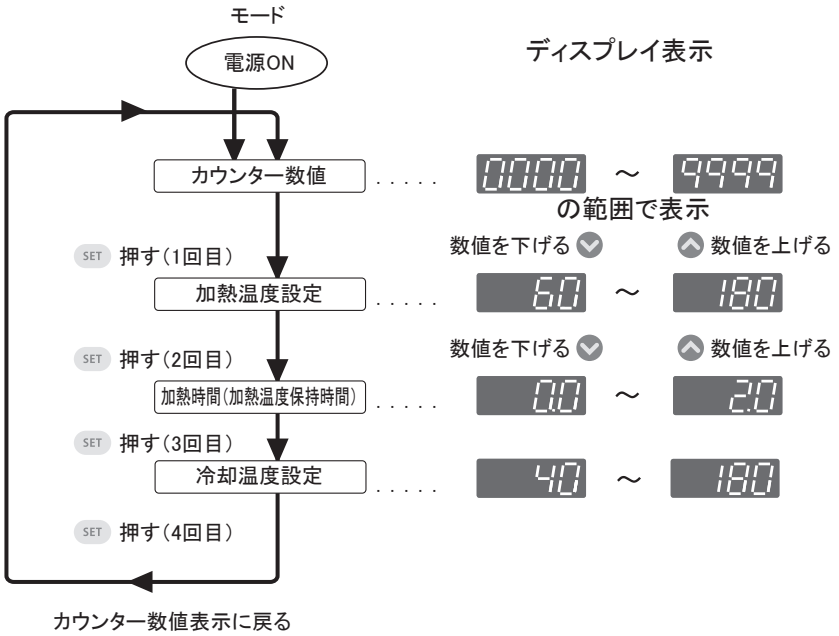


6-4-3　冷却温度の設定

・SETボタンを押し、モードランプの COOL TEMP が点灯していることを確認します。
・冷却温度の設定をします。
　▲▼ ボタンで数値を加減して設定します。
　［冷却温度の設定範囲：40℃～加熱温度設定値］
・冷却温度は充分にとってください。

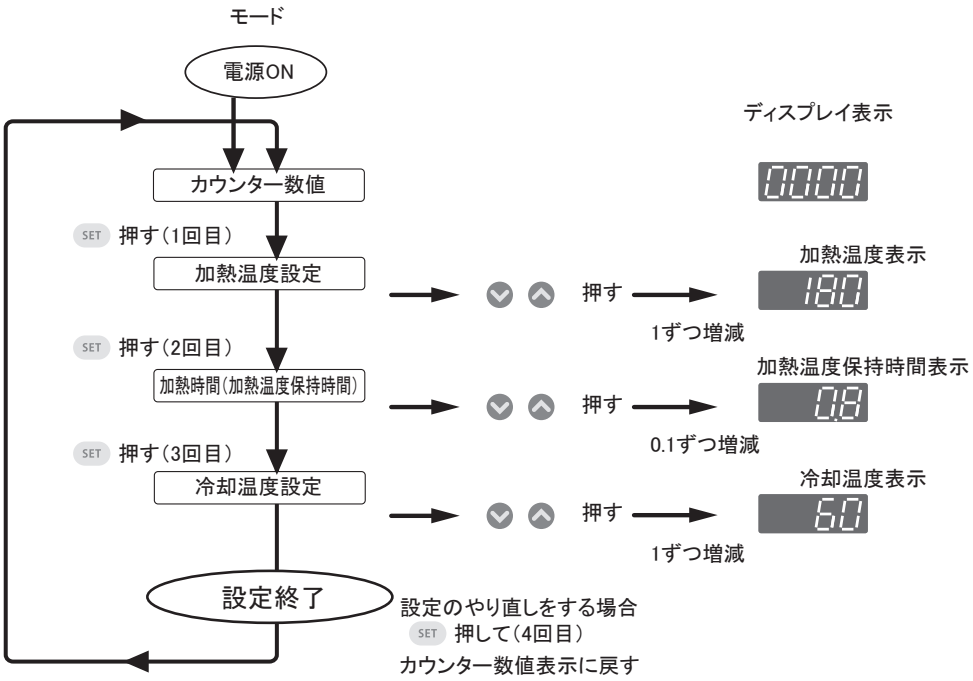
6-5　各モードの設定手順





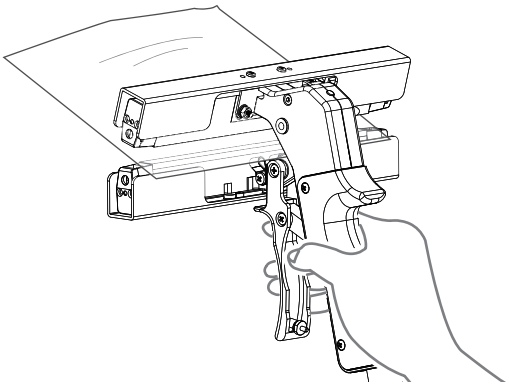
各モードの設定手順例

設定数値例：加熱温度 180℃　加熱時間（加熱温度保持時間）0.8 秒　冷却温度 60℃

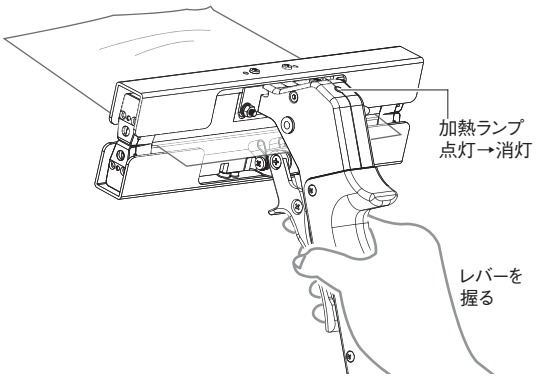


6-6　レバーを握りシールを行う

シール部に袋（フィルム）をセットします。



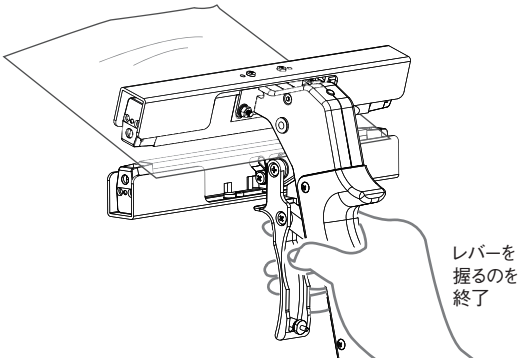
本体のレバーを引き（握り）ます。
レバーを引き（握り）ますと本体部の加熱ランプが点灯します。
設定加熱温度に到達すると本体部の加熱ランプが消灯します。



6-7　シールのできあがり

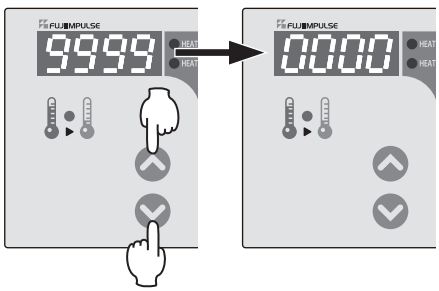
ヒーター部温度が設定冷却温度まで下がりますとブザーが鳴りますのでブザーを目安にしてレバーを引く（握る）のを終了し、シール部を開口して袋（フィルム）を取り出します。

注！ 袋（フィルム）により冷却温度は異なります。ブザーを目安にしてください。



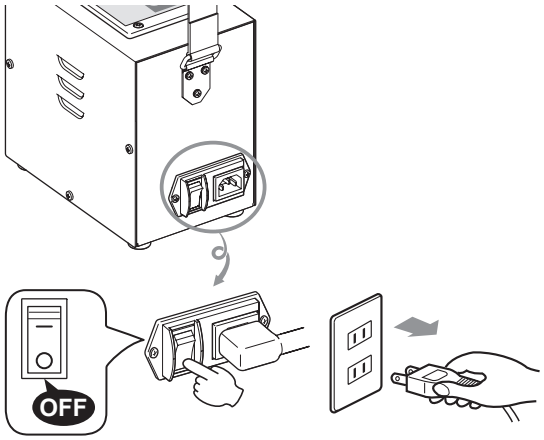
6-8　カウンターのリセット

シール作業を行うとカウンターの数値が 1 ずつ 0000 ～ 9999 の範囲で増えていきます。
数値を 0000 に戻したい場合は、カウンター数（シール数）を表示しているモードでの状態で ▲ と ▼ ボタンを同時に押してください。



6-9　電源スイッチを OFF にする

作業が終了したら、必ず電源スイッチを押して OFF にしてください。



長時間使用されない時は制御部からハンド部を取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

6-10　作業終了後の点検

終了したら、清掃を行い、センタードライテープやヒーター等の部品が傷んでいないか点検を行ってください。
傷んでいるようであれば「7　消耗部品の交換方法」(→ P.18) を参照して、交換を行ってください。